



欽定四庫全書

七

津田文庫  
文庫 1  
1627  
7





古今和歌集卷第七

共一代集後書

惠行

繪鳩 倚石

淡路



つだ文庫

010190607840

同

同

新勅撰雜五

狭衣今春上

玉葉壽緣

氷室山

山城

この氷室山乃おこはつらに花の香りの日

千載春下

同夏

新撰古今夏

同冬

櫃河橋

同

あこさゆら氷室山の雪う橋渡のこりあつたやうとそ方  
わたりら入流りきり氷室山にぞり水あかたれきき  
ら流とわくとくもんもあ氷室山の流し若川の水  
取あれは雪の雪氷流る日と雪氷室山の下葉

源仲正

大炊内右衛門

寺門院

順徳院

前奉齋藤隆

藤原家基

藤原重經

後醍醐寺元大

皇太后俊成

右大臣督雄



新勅撰書 於此伏見と云ふ所なり 後醍醐天皇御代 俊成

廣澤一池 同

後拾遺書 伯人なる元山室乃杖のよみ所なりと云ふのりきり藤原範永

伯人の元山室乃杖のよみ所なりと云ふのりきり藤原範永

同種 山のふもとにありて杖のよみ所なりと云ふのりきり藤原範永

新撰撰書 杖のよみ所なりと云ふのりきり藤原範永

凡推春中 ひろは池のよみ所なりと云ふのりきり藤原範永

同天教 杖のよみ所なりと云ふのりきり藤原範永

新撰撰書 杖のよみ所なりと云ふのりきり藤原範永

新撰撰書 杖のよみ所なりと云ふのりきり藤原範永

拾遺書 杖のよみ所なりと云ふのりきり藤原範永

同并記 杖のよみ所なりと云ふのりきり藤原範永

杖のよみ所なりと云ふのりきり藤原範永

杖のよみ所なりと云ふのりきり藤原範永

杖のよみ所なりと云ふのりきり藤原範永

杖のよみ所なりと云ふのりきり藤原範永

杖のよみ所なりと云ふのりきり藤原範永

杖のよみ所なりと云ふのりきり藤原範永

杖のよみ所なりと云ふのりきり藤原範永

杖のよみ所なりと云ふのりきり藤原範永

杖のよみ所なりと云ふのりきり藤原範永

杖のよみ所なりと云ふのりきり藤原範永

杖のよみ所なりと云ふのりきり藤原範永

杖のよみ所なりと云ふのりきり藤原範永

杖のよみ所なりと云ふのりきり藤原範永

杖のよみ所なりと云ふのりきり藤原範永

杖のよみ所なりと云ふのりきり藤原範永

杖のよみ所なりと云ふのりきり藤原範永

杖のよみ所なりと云ふのりきり藤原範永

杖のよみ所なりと云ふのりきり藤原範永

杖のよみ所なりと云ふのりきり藤原範永

杖のよみ所なりと云ふのりきり藤原範永

杖のよみ所なりと云ふのりきり藤原範永



新後拾遺春 去後多むいさわつる春向ひつれあつたのこころ 清原深養父  
新後古今章 春向ひつれあつたのこころ 土師内院  
同冬 位は何時後からん春向ひつれあつたのこころ 中国入道前  
権限川 同 益河内国由難有異説 皇化天皇之白王  
大臣大臣

権限川

古今全書

川のりつらびの隈川は約とあてては川水へ氣をとるん

後後撰秋中

物とつらひの隈川は約とあてては川水へ氣をとるん 権限川

玉葉夏

約とつらひの隈川は約とあてては川水へ氣をとるん 中臣社

後千載恋三

物とつらひの隈川は約とあてては川水へ氣をとるん 深守内助女

後後拾遺夏

物とつらひの隈川は約とあてては川水へ氣をとるん 後守内院

同別

思ひてむの隈川は約とあてては川水へ氣をとるん 西園寺入道

新後夏冬

思ひてむの隈川は約とあてては川水へ氣をとるん 前大臣

廣田社

後津

新後夏冬

思ひてむの隈川は約とあてては川水へ氣をとるん 深守内親王

昨鴻

同

新後夏冬

思ひてむの隈川は約とあてては川水へ氣をとるん 中務卿王

引馬野

後津

新後夏冬

思ひてむの隈川は約とあてては川水へ氣をとるん 中務卿王

新後夏冬

思ひてむの隈川は約とあてては川水へ氣をとるん 中務卿王

山根湊

近江

新後夏冬

思ひてむの隈川は約とあてては川水へ氣をとるん 左近將良

同秋下

思ひてむの隈川は約とあてては川水へ氣をとるん 加太範兼

同冬

思ひてむの隈川は約とあてては川水へ氣をとるん 道周法師

新後夏冬

思ひてむの隈川は約とあてては川水へ氣をとるん 官内

同冬

思ひてむの隈川は約とあてては川水へ氣をとるん 法性寺入道

同秋下

思ひてむの隈川は約とあてては川水へ氣をとるん 前大臣

新後夏冬

思ひてむの隈川は約とあてては川水へ氣をとるん 西行法師

後後撰春

思ひてむの隈川は約とあてては川水へ氣をとるん 平兼盛

同秋下

思ひてむの隈川は約とあてては川水へ氣をとるん 後鳥羽院

後百全冬

思ひてむの隈川は約とあてては川水へ氣をとるん 経信

新後撰秋下

思ひてむの隈川は約とあてては川水へ氣をとるん 院大納言

後千載秋下

思ひてむの隈川は約とあてては川水へ氣をとるん 鎌倉五臣

同秋上

思ひてむの隈川は約とあてては川水へ氣をとるん 行親法師



法橋院助

後拾遺冬

舟打さるひの湊乃船水さゆらくつるるはやけこ

新千載春

志の浦やうもくは活もゆめの花吹雪もてひの山嵐

新拾遺冬

深約く山平岡さしてら波乃ひの湊亦あつて雪乃

同

湖入海やひの浦さきゆかきちり水さるる乃凡

同雜上

雪さるらひの山文取ふさ浪なれど世はねを

新後拾遺春

ひらの山言林入嵐吹る入はたさうさるる乃波

新後拾遺春

を江らや波の湊は波をあてひらぬる波の花をみる哉

同

ら波やひの浦さきゆかきちり水さるる乃凡

同

水さるらひの山言林入嵐吹る入はたさうさるる乃波

法教

社山 高根 社宮同

同

ひえふのあつてうらもくつてさうさるる乃波

古多春下

山さきゆかきちり水さるる乃凡

拾遺春

ねさうらひの浦さきゆかきちり水さるる乃凡

同

秋風あつてうらもくつてさうさるる乃波

同

ひえの山言林入嵐吹る入はたさうさるる乃波

同

その花吹雪もんとてうらもくつてさうさるる乃波

同

あゆまておらとあつてうらもくつてさうさるる乃波

同

うらもくつてさうさるる乃波

同

ひえの山言林入嵐吹る入はたさうさるる乃波

同

その花吹雪もんとてうらもくつてさうさるる乃波

同

あゆまておらとあつてうらもくつてさうさるる乃波

同

うらもくつてさうさるる乃波

同

ひえの山言林入嵐吹る入はたさうさるる乃波

同

その花吹雪もんとてうらもくつてさうさるる乃波

同

あゆまておらとあつてうらもくつてさうさるる乃波

同

うらもくつてさうさるる乃波

同

ひえの山言林入嵐吹る入はたさうさるる乃波

同

その花吹雪もんとてうらもくつてさうさるる乃波

同

あゆまておらとあつてうらもくつてさうさるる乃波

同

うらもくつてさうさるる乃波

同

ひえの山言林入嵐吹る入はたさうさるる乃波

同

その花吹雪もんとてうらもくつてさうさるる乃波

同

あゆまておらとあつてうらもくつてさうさるる乃波

同

うらもくつてさうさるる乃波

同

ひえの山言林入嵐吹る入はたさうさるる乃波

同

その花吹雪もんとてうらもくつてさうさるる乃波

同

あゆまておらとあつてうらもくつてさうさるる乃波

同

うらもくつてさうさるる乃波

同

ひえの山言林入嵐吹る入はたさうさるる乃波

同

その花吹雪もんとてうらもくつてさうさるる乃波

同

あゆまておらとあつてうらもくつてさうさるる乃波

同

うらもくつてさうさるる乃波



又新推三折句  
又新推三折句

今もいふて嬉しき法の花を世乃仏の尊の物とて 慈鎮

同 雅雅下

いふこの山よれ平つきて花乃物なりてく笑ふとくと 上下事

同 津祇

波母山や小ひえ乃夜の海山の向も遠く小人もほ 前権僧正全  
現比方  
波下成運

新推津祇

比敷山の中堂より一めて名灯とありて

同 天教

明らきく後の佛乃とせまをえつて今法のとり次 傳教大師

同

中なる山のさね乃鐘の音にあらん眼をわらふる心海へ

新推津祇

あめあしと我乃杖しはふはゆる白雲 権大僧都  
暹

百日の入堂へふは散雲を動寺よのゆるとて  
ふみゆるあり

同 天教

あつじまふ法とこのをあらむる山下水菖蒲くとも 八道品 親王  
一品源親王 亮

新推津祇

あつじまふ法とこのをあらむる山下水菖蒲くとも

あつじまふ法とこのをあらむる山下水菖蒲くとも

後推津祇

あつじまふ法とこのをあらむる山下水菖蒲くとも 大氣定政

千載津祇

あつじまふ法とこのをあらむる山下水菖蒲くとも 法印慈田

同

あつじまふ法とこのをあらむる山下水菖蒲くとも 法橋性愚

同

あつじまふ法とこのをあらむる山下水菖蒲くとも 中原師尚

新推津祇

あつじまふ法とこのをあらむる山下水菖蒲くとも

同

あつじまふ法とこのをあらむる山下水菖蒲くとも 慈田

同

あつじまふ法とこのをあらむる山下水菖蒲くとも

同

あつじまふ法とこのをあらむる山下水菖蒲くとも

同

あつじまふ法とこのをあらむる山下水菖蒲くとも 有原全 權



日吉社皇社の心とよみなるあり

新勅撰神祇 志の浦よみの多波たそくまらりきりありへの乃慈田

同日 日吉社皇社の心とよみなるあり

同日 日吉社皇社の心とよみなるあり

同日 日吉社皇社の心とよみなるあり

同日 日吉社皇社の心とよみなるあり

十禪師文

同日 本のがふらぬ世法て 後光とてくも道やもまの神同

同日 又後古今神祇 十禪師法よみみてたてまつりきり

同日 物の中まの心はあきらみたる我の心とよみなる

同日 やりたるえゆきとてきりきりやみたる心とよみなる

同日 聖まの心とてきりきりやみたる心とよみなる

同日 やりたるえとてきりきりやみたる心とよみなる

同日 客人の社よみなるあり

同日 後光とてくも道やもまの神同

同日 又後古今神祇 十禪師法よみみてたてまつりきり

同日 物の中まの心はあきらみたる我の心とよみなる

同日 やりたるえゆきとてきりきりやみたる心とよみなる

同日 聖まの心とてきりきりやみたる心とよみなる

同日 やりたるえとてきりきりやみたる心とよみなる

同日 客人の社よみなるあり

同日 後光とてくも道やもまの神同

同日 又後古今神祇 十禪師法よみみてたてまつりきり

同日 物の中まの心はあきらみたる我の心とよみなる

同日 やりたるえゆきとてきりきりやみたる心とよみなる

同日 聖まの心とてきりきりやみたる心とよみなる

同日 やりたるえとてきりきりやみたる心とよみなる

同日 客人の社よみなるあり

同日 後光とてくも道やもまの神同

同日 又後古今神祇 十禪師法よみみてたてまつりきり

同日 物の中まの心はあきらみたる我の心とよみなる

同日 やりたるえゆきとてきりきりやみたる心とよみなる

同日 聖まの心とてきりきりやみたる心とよみなる

同日 やりたるえとてきりきりやみたる心とよみなる

同日 客人の社よみなるあり



新後拾遺

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

... 慈鎮

... 後儀院

... 民石馬友

... 十禪師

... 前大僧正道

... 道二品

... 為相

... 世とてあかく日若く神儀ふ心の

... 世とてあかく日若く神儀ふ心の

... 世とてあかく日若く神儀ふ心の

... 世とてあかく日若く神儀ふ心の

... 世とてあかく日若く神儀ふ心の

... 世とてあかく日若く神儀ふ心の

... 世とてあかく日若く神儀ふ心の

... 世とてあかく日若く神儀ふ心の

... 世とてあかく日若く神儀ふ心の

... 世とてあかく日若く神儀ふ心の

... 世とてあかく日若く神儀ふ心の

... 世とてあかく日若く神儀ふ心の

... 世とてあかく日若く神儀ふ心の

... 世とてあかく日若く神儀ふ心の

... 世とてあかく日若く神儀ふ心の

... 世とてあかく日若く神儀ふ心の

... 世とてあかく日若く神儀ふ心の

... 世とてあかく日若く神儀ふ心の

... 世とてあかく日若く神儀ふ心の

... 世とてあかく日若く神儀ふ心の

... 世とてあかく日若く神儀ふ心の

... 世とてあかく日若く神儀ふ心の

... 世とてあかく日若く神儀ふ心の

... 世とてあかく日若く神儀ふ心の

... 世とてあかく日若く神儀ふ心の

... 世とてあかく日若く神儀ふ心の

... 世とてあかく日若く神儀ふ心の

... 世とてあかく日若く神儀ふ心の

... 世とてあかく日若く神儀ふ心の

... 世とてあかく日若く神儀ふ心の

... 世とてあかく日若く神儀ふ心の

... 世とてあかく日若く神儀ふ心の

... 世とてあかく日若く神儀ふ心の

... 世とてあかく日若く神儀ふ心の



山のふもとにありて人の世のひびきの山は遠くて後世の事  
初めしつる次はよき世にふくむひこのころは乃池水よまき守  
ん紙又よき世にふくむひこのころは乃池水よまき守  
初めよき世にふくむひこのころは乃池水よまき守

引野

壹波

古今恋四 榎弓ひびきのはら東つあやうつお今とのまきん 使不知  
あのみをそあつらふあつらふ門あつらんれ

同 榎弓ひびきのはら東つあやうつお今とのまきん 使不知  
あのみをそあつらふあつらふ門あつらんれ

千原浦

赤勘

玉葉雜一 千原浦の海をよみし夕波のひびきの浦は雲れ神を  
新千載雜一 海をよみし夕波のひびきの浦は雲れ神を

守山

池江

古今秋下 白鳥と時ぬもつこもつら下を流るるの舟はなり 貫之  
推送別 白鳥と時ぬもつこもつら下を流るるの舟はなり 貫之  
金葉恋一 白鳥と時ぬもつこもつら下を流るるの舟はなり 貫之  
詞花秋 白鳥と時ぬもつこもつら下を流るるの舟はなり 貫之

赤勘元年 高倉院法時大尊會慈純の御  
あうひの舟も池に國を山はよせり

千載津禰 望とやと方竹の許をみかたにたてよもつら山あうれ  
新古今秋下 望とやと方竹の許をみかたにたてよもつら山あうれ

同賀 望とやと方竹の許をみかたにたてよもつら山あうれ  
同冬 望とやと方竹の許をみかたにたてよもつら山あうれ

同恋一 望とやと方竹の許をみかたにたてよもつら山あうれ  
同恋二 望とやと方竹の許をみかたにたてよもつら山あうれ

同恋三 望とやと方竹の許をみかたにたてよもつら山あうれ  
後拾遺秋下 望とやと方竹の許をみかたにたてよもつら山あうれ

新後撰恋一 望とやと方竹の許をみかたにたてよもつら山あうれ  
玉葉雜三 望とやと方竹の許をみかたにたてよもつら山あうれ

新千載恋一 望とやと方竹の許をみかたにたてよもつら山あうれ

官内承範 家隆 式部輔實 左大臣 赤勘推經 光明寺 道前 前納言 定家 祝部成長 貫之 如教法師







後撰撰人教も上川八坂のせいのかあめえりて流に絶たるる事也 寂然法師

後古今冬 舟も管の舟も上川出りしる此河を管めり 前内大臣

新撰撰人 舟もこの舟も上川出りしる此河を管めり 菅原朝房

後千載夏 舟も上川水を流るる舟も舟も上川出りしる此河を管めり 前内大臣

後撰拾遺中 舟も上川水を流るる舟も舟も上川出りしる此河を管めり 後成

新千載恋三 舟も上川水を流るる舟も舟も上川出りしる此河を管めり 鴨祐夏

同 舟も上川水を流るる舟も舟も上川出りしる此河を管めり 菅原朝房

新撰撰人 舟も上川水を流るる舟も舟も上川出りしる此河を管めり 有家

同 舟も上川水を流るる舟も舟も上川出りしる此河を管めり 後島親院

同 舟も上川水を流るる舟も舟も上川出りしる此河を管めり 道目法師

同 舟も上川水を流るる舟も舟も上川出りしる此河を管めり 道目法師

同 舟も上川水を流るる舟も舟も上川出りしる此河を管めり 道目法師

同 舟も上川水を流るる舟も舟も上川出りしる此河を管めり 道目法師

同 舟も上川水を流るる舟も舟も上川出りしる此河を管めり 道目法師

同 舟も上川水を流るる舟も舟も上川出りしる此河を管めり 道目法師

同 舟も上川水を流るる舟も舟も上川出りしる此河を管めり 道目法師

同 舟も上川水を流るる舟も舟も上川出りしる此河を管めり 道目法師

同 舟も上川水を流るる舟も舟も上川出りしる此河を管めり 道目法師

同 舟も上川水を流るる舟も舟も上川出りしる此河を管めり 道目法師

同 舟も上川水を流るる舟も舟も上川出りしる此河を管めり 道目法師

同 舟も上川水を流るる舟も舟も上川出りしる此河を管めり 道目法師

同 舟も上川水を流るる舟も舟も上川出りしる此河を管めり 道目法師

同 舟も上川水を流るる舟も舟も上川出りしる此河を管めり 道目法師

同 舟も上川水を流るる舟も舟も上川出りしる此河を管めり 道目法師

同 舟も上川水を流るる舟も舟も上川出りしる此河を管めり 道目法師

同 舟も上川水を流るる舟も舟も上川出りしる此河を管めり 道目法師

同 舟も上川水を流るる舟も舟も上川出りしる此河を管めり 道目法師

同 舟も上川水を流るる舟も舟も上川出りしる此河を管めり 道目法師

新撰撰人

後古今冬

新撰撰人

後千載夏

後撰拾遺中

新千載恋三

同

新撰撰人

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

寂然法師

前内大臣

菅原朝房

前内大臣

後成

鴨祐夏

菅原朝房

有家

後島親院

道目法師

道目法師

道目法師

道目法師

道目法師

道目法師

道目法師

道目法師

道目法師

道目法師

道目法師

道目法師

道目法師

道目法師

道目法師

道目法師

道目法師

道目法師

道目法師

寂然法師

前内大臣

菅原朝房

前内大臣

後成

鴨祐夏

菅原朝房

有家

後島親院

道目法師

道目法師

道目法師

道目法師

道目法師

道目法師

道目法師

道目法師

道目法師

道目法師

道目法師

道目法師

道目法師

道目法師

道目法師

道目法師

道目法師

道目法師

道目法師



後千載雜中 今もたつと流のさすき者とてなせり川乃水 確中納言松  
新法古今春 去れんられは道るる多し待きり川よりうか橋也 家隆

開法水

山江

後撰恋四 開越てあそぶ杖のおそいも流のみみじ敷と云ふ 淡人不知

拾遺秋 あぶ坂の雲乃流水は新々今やひらりん望月の初 貫之

後拾遺恋一 名道坂のあそびも極す一息とれ蘭の流水は袖もぬれり 山家

同恋三 あぶ坂の雲乃流水はや濁らんあそびのけりもぬき 僧都遍教

金葉秋 引約の敷より外よみ流るる園の流水の初あそぶの 藤原隆経

千載表 ちよのけりも流水は宿りきりこころひ敷しあぶ坂の園 友原範永

同 越ておなやちりむ相坂の園乃流水はるをさるは 大納言定房

同雜中 あそびこころひ流るる流美水は今そそりけりそは 東三条院

後拾遺秋上 相坂の園乃流水のちりりそそり流るるをさるは 孔楠

後拾遺恋四 袖ぬれし雲乃流水は流と越てまればあそぶのせま 前大僧正 起

新後拾遺別 ちよちよ寸約と云ふも相坂の園の流水は氣もえゆじ 順徳院

同 人も越流もさるあそびあぶ坂の雲乃流水の守り必りたり 小式部内侍

新法古今秋 開法水はさるる流るるをさるは 藤原隆経

金葉秋 高野山に紅葉敷らむあそぶ園の小川よりさそりて 源俊頼

千載夏 夕まれに舟舟あそぶもさるる園の小川より流る 友原道経

新勅撰恋 流るるも今もあそぶ雲乃流水は流るるをさるは 兵部元良

同返 雲乃流水の雲乃とら流るるを流るる流るるのそめりん 平中貞女

勢多 長橋

同

新古今雜中 高野山に紅葉敷らむあそぶ園の小川よりさそりて 巨房

後撰撰恋四 高野山に紅葉敷らむあそぶ園の小川よりさそりて 橋俊經

新後撰春上 湖の海や雲乃流るるをさるる園の小川よりさそりて 為家

玉葉秋下 ちよちよて流るるもさるる園の小川よりさそりて 左近兼実

風雅賀 流るるもさるる園の小川よりさそりて 兼盛

新後撰雜上 流るるもさるる園の小川よりさそりて 惟貞上人

開藤河

羨濃

古今今昔 女の心園の若河後とてさるる流るるをさるは 前開皇天

後古今賀 万代はつとてさるる園の若河 藤原為兼

後拾遺雜上 つとてさるる園の若河 藤原為兼



新後撰雜下つふとん國の源海世とてつう人しはまうれせゆさ前大納言

後千載雜中後千載我々てをせふうすうぬ松末て松園の源川為世

後後拾遺中多うぬみのを山ふらとよけいもの國乃ち川道則政入

同 けふあの中山たつも洗かてり美の源川前參議

同 引水乃妻と思つて入りむの流のを流る梅ら川道前大政元明

同 神代の道の國ははるきる勢りと後ぬ雲の源川道前大政元明

同 新千載公教 殺るぬ雲乃ち川漕舟のはるぬも也世にはすか？法下雲權臣

同 同雜中 後とてを收入し物汰積せぬと洗りん國の源川為世

同 けふのひんひひぬもぬ世中はまつてわらぬ國は源川漢人不知

同 教るぬ國の源海末まてともふん秋まにぬめて一奈内大臣右大臣

同 長き一みせてわらぬともふらううう道の雲は源川前内大臣

新拾遺雜中 後ぬ國の源川はるぬともふらうううう道の雲は源川山城

同 炭竈里山城 新後古今ともふらううひひぬもぬ世中はまつてわらぬ國は源川お市門院

同 炭竈の煙と雲の名をあらてるともふらううひひぬもぬ世中はまつてわらぬ國は源川藤原尹定

新拾遺下 炭竈の煙と雲の名をあらてるともふらううひひぬもぬ世中はまつてわらぬ國は源川前僧正信

同 炭竈の煙と雲の名をあらてるともふらううひひぬもぬ世中はまつてわらぬ國は源川同

同 古今雜下 いままい我世へもん若也也伏見の里の雲まるくも世漢人不知

同 後撰恋六 後也也也伏見の里の雲まるくも世司

同 同雜三 後也也也伏見の里の雲まるくも世同

同 拾遺恋五 後也也也伏見の里の雲まるくも世源重之

同 千載秋上 何ももの地も地もいまもの也也伏見の里の雲まるくも世源俊頼

同 同恋三 何ももの地も地もいまもの也也伏見の里の雲まるくも世俊成

同 新古今秋上 何ももの地も地もいまもの也也伏見の里の雲まるくも世家隆

同 同秋下 何ももの地も地もいまもの也也伏見の里の雲まるくも世慈山

同 後撰撰恋三 何ももの地も地もいまもの也也伏見の里の雲まるくも世順徳院

同 新後撰撰恋上 何ももの地も地もいまもの也也伏見の里の雲まるくも世前中納言

同 玉葉珠 何ももの地も地もいまもの也也伏見の里の雲まるくも世能目法師

同 後千載夏 何ももの地も地もいまもの也也伏見の里の雲まるくも世定家

同 新拾遺春下 何ももの地も地もいまもの也也伏見の里の雲まるくも世後鳥羽院



同冬

同雜

新後夏

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

里より雪の中より雪も依人の言を依らざるに  
正三位李經  
阿波師

菅田池

同 添上郡

千載恋四

又拾遺雜

住吉

神里神

攝津

待賢門院

後京極

同雜

同恋五

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

住吉の松と枝を吹くくふがうらそ歌沖はさく波  
敏行

住吉の松と枝を吹くくふがうらそ歌沖はさく波  
敏行

住吉の松と枝を吹くくふがうらそ歌沖はさく波  
敏行

住吉の松と枝を吹くくふがうらそ歌沖はさく波  
敏行

住吉の松と枝を吹くくふがうらそ歌沖はさく波  
敏行

住吉の松と枝を吹くくふがうらそ歌沖はさく波  
敏行

住吉の松と枝を吹くくふがうらそ歌沖はさく波  
敏行

住吉の松と枝を吹くくふがうらそ歌沖はさく波  
敏行

住吉の松と枝を吹くくふがうらそ歌沖はさく波  
敏行

住吉の松と枝を吹くくふがうらそ歌沖はさく波  
敏行

住吉の松と枝を吹くくふがうらそ歌沖はさく波  
敏行

住吉の松と枝を吹くくふがうらそ歌沖はさく波  
敏行

住吉の松と枝を吹くくふがうらそ歌沖はさく波  
敏行

住吉の松と枝を吹くくふがうらそ歌沖はさく波  
敏行

住吉の松と枝を吹くくふがうらそ歌沖はさく波  
敏行

住吉の松と枝を吹くくふがうらそ歌沖はさく波  
敏行

住吉の松と枝を吹くくふがうらそ歌沖はさく波  
敏行

住吉の松と枝を吹くくふがうらそ歌沖はさく波  
敏行

住吉の松と枝を吹くくふがうらそ歌沖はさく波  
敏行

住吉の松と枝を吹くくふがうらそ歌沖はさく波  
敏行

住吉の松と枝を吹くくふがうらそ歌沖はさく波  
敏行

住吉の松と枝を吹くくふがうらそ歌沖はさく波  
敏行

住吉の松と枝を吹くくふがうらそ歌沖はさく波  
敏行

住吉の松と枝を吹くくふがうらそ歌沖はさく波  
敏行

住吉の松と枝を吹くくふがうらそ歌沖はさく波  
敏行

住吉の松と枝を吹くくふがうらそ歌沖はさく波  
敏行

住吉の松と枝を吹くくふがうらそ歌沖はさく波  
敏行



同雜下

同津樂

同

同

同恋三

同

同恋二

同恋一

同恋三

同恋四

同

同恋五

後拾遺書

同賀

同恋三

同

同雜三

同四

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同賀

金葉春

松の葉は春の國の住うと云く思ふやうな心を

佐古の岸にさき足地知は移くも今よりさき思ふ

天下のあはれはあひまは思ふをひさし住うるを

秋とくは秋の事と云ふらんむじりと事なる佐古の松

事事と云ふて年よりあつた力を佐古の松の葉に

思ひつゝさへらるゝ佐古の松の葉のうらみはあはれ

佐古の松の葉のうらみはあはれ思ふて思ふて思ふ

久遠も思ふ思ふの心は佐古の松の葉のうらみは

佐古の松の葉のうらみはあはれ思ふて思ふて思ふ

思ふて思ふて思ふて思ふて思ふて思ふて思ふ

住うるを思ふて思ふて思ふて思ふて思ふて思ふ

思ふて思ふて思ふて思ふて思ふて思ふて思ふ

思ふて思ふて思ふて思ふて思ふて思ふて思ふ

思ふて思ふて思ふて思ふて思ふて思ふて思ふ

思ふて思ふて思ふて思ふて思ふて思ふて思ふ

思ふて思ふて思ふて思ふて思ふて思ふて思ふ

思ふて思ふて思ふて思ふて思ふて思ふて思ふ

思ふて思ふて思ふて思ふて思ふて思ふて思ふ

思ふて思ふて思ふて思ふて思ふて思ふて思ふ

思ふて思ふて思ふて思ふて思ふて思ふて思ふ

思ふて思ふて思ふて思ふて思ふて思ふて思ふ

思ふて思ふて思ふて思ふて思ふて思ふて思ふ

思ふて思ふて思ふて思ふて思ふて思ふて思ふ

思ふて思ふて思ふて思ふて思ふて思ふて思ふ

思ふて思ふて思ふて思ふて思ふて思ふて思ふ

思ふて思ふて思ふて思ふて思ふて思ふて思ふ

思ふて思ふて思ふて思ふて思ふて思ふて思ふ

思ふて思ふて思ふて思ふて思ふて思ふて思ふ

思ふて思ふて思ふて思ふて思ふて思ふて思ふ

忠見

住吉明神氏

安法法師

惠慶法師

後入下知

同

大納言

忠房

柿本人丸

後入下知

同

人曾

後入下知

元輔

大江匡衡

相模

津守國

二条院

民部卿

藤原高長

平棟仲

源頼実

増基法師

赤染山門

山口重如

連仲法師

石清水

佐古の松

佐古の松

佐古の松

佐古の松

佐古の松

佐古の松

佐古の松







同

新勅書

同恋一

同恋二

同恋三

同

同

後後撰整

同神祇

同

同

同

同

同

同

同

後古事

同神祇

同

同

同

同

同恋一

同雜中

同

同雜下

後拾遺要

同雜春

同恋五

任者...津守有基

任者...覺延法師

任者...藤原為忠

任者...後人不知

任者...和泉式部

任者...一条左大臣

任者...後德太寺

任者...定家

任者...前大政大臣

任者...後三善院住持

任者...今日...  
大寺十撰御伊  
房千時...  
本寺大...  
收...  
前大納言...  
鎌倉...  
後三善院

任者...  
夏秋...  
權...  
津守...  
卜部...  
中納言...  
文...  
前...  
大上...  
光...  
金...  
左...  
清...  
大上...  
藤...  
前...  
澄...  
中...

任者...  
中納言

任者...  
文

任者...  
前

任者...  
大上

任者...  
光

任者...  
金

任者...  
左

任者...  
清

任者...  
大上

任者...  
藤

任者...  
前

任者...  
澄

任者...  
中

任者...  
原

任者...  
行

任者...  
能







同

同恋五

同

同雜上

後後拾遺陸

同夏

同恋四

同社祇

同

同

同

同

同

同

同雜上

同雜中

同社祇

同

新千載社祇

同

同恋五

同

同雜上

同賀

同

同哀復

同恋三

同社祇

同

美らう此波の國に昔ある人の名をてぬくは六

三葉つふふありと伯耆の三つも一も神にぬれぬ

つふふも人をと伯耆の葉はぬきぬかゝりも

まをりしは丹乃と名なすまぬれぬまゝのふも

左の松と名するまゝに伯耆のまゝに花咲きぬ

伯耆の松と名するまゝに波のまゝに

忘るるまゝにまゝに伯耆のまゝに

伯耆のまゝにまゝにまゝに

まゝにまゝにまゝにまゝに

まゝにまゝにまゝにまゝに

まゝにまゝにまゝにまゝに

まゝにまゝにまゝにまゝに

まゝにまゝにまゝにまゝに

まゝにまゝにまゝにまゝに

まゝにまゝにまゝにまゝに

まゝにまゝにまゝにまゝに

まゝにまゝにまゝにまゝに

まゝにまゝにまゝにまゝに

まゝにまゝにまゝにまゝに

まゝにまゝにまゝにまゝに

まゝにまゝにまゝにまゝに

まゝにまゝにまゝにまゝに

まゝにまゝにまゝにまゝに

まゝにまゝにまゝにまゝに

まゝにまゝにまゝにまゝに

まゝにまゝにまゝにまゝに

まゝにまゝにまゝにまゝに

まゝにまゝにまゝにまゝに

まゝにまゝにまゝにまゝに

源兼氏

俊成

典侍親王

公室権帥

為家

平忠盛

後鳥羽院

慶資王母

土門院

前大納言

津守國基

貞清

平時香

津守國基

前大納言

後三位

前大納言

津守國基

為兼

友系長考

侯人不知

為相

友系長考

赤陽門院

法成寺入道

西園寺入道

前太政大臣

藤義公

土門院

伊勢大神

權大納言























詞花夏

不日海の白波吹きしに於麻山八十洲の流るる海は

皇内院治

十載冬

わがまゝに江終ぬれはとく山常とて安んずる也

内大臣

新夏秋下

山に河海とて山常とて安んずる也

大上天皇

同雜中

於麻山八十洲の流るる海は

西行法師

新初撰夏

わが初ていふ成ぬ於麻山八十洲の流るる海は

俊成

同雜

急なをまるとはらん接する者乃刈り小記

權納言 俊

同林祇

わが初ていふ成ぬ於麻山八十洲の流るる海は

後京極

同雜四

秋涼く成るるをいふとく山常とて安んずる也

大蔵有象

新撰撰林祇

わが初ていふ成ぬ於麻山八十洲の流るる海は

僧正行意

後古今旅

わが初ていふ成ぬ於麻山八十洲の流るる海は

式部院 運

同雜中

わが初ていふ成ぬ於麻山八十洲の流るる海は

正三位知家

後拾送旅

わが初ていふ成ぬ於麻山八十洲の流るる海は

前大僧正 隆 弁

同

わが初ていふ成ぬ於麻山八十洲の流るる海は

小舟

新撰撰林祇

わが初ていふ成ぬ於麻山八十洲の流るる海は

定家

同雜二

わが初ていふ成ぬ於麻山八十洲の流るる海は

小馬命婦

後千載夏

わが初ていふ成ぬ於麻山八十洲の流るる海は

前大僧正 隆 弁

風雅秋下

わが初ていふ成ぬ於麻山八十洲の流るる海は

藤原朝村

新千載林祇

わが初ていふ成ぬ於麻山八十洲の流るる海は

院以家

同

わが初ていふ成ぬ於麻山八十洲の流るる海は

荒木由成忠

新撰撰林祇

わが初ていふ成ぬ於麻山八十洲の流るる海は

源兼氏

同林祇

わが初ていふ成ぬ於麻山八十洲の流るる海は

橋遠村

新撰撰林祇

わが初ていふ成ぬ於麻山八十洲の流るる海は

醜入道

同雜上

わが初ていふ成ぬ於麻山八十洲の流るる海は

祖月法師

同林祇

わが初ていふ成ぬ於麻山八十洲の流るる海は

後入不社

新撰撰林祇

わが初ていふ成ぬ於麻山八十洲の流るる海は

遊在雅春

新撰撰林祇

わが初ていふ成ぬ於麻山八十洲の流るる海は

遊在雅春

新撰撰林祇

わが初ていふ成ぬ於麻山八十洲の流るる海は

遊在雅春

新撰撰林祇

わが初ていふ成ぬ於麻山八十洲の流るる海は

遊在雅春



角田河川原

下総

下畧

古事類

新勅撰様

同

同恋一

後更々様

後撰撰様

手兼様

後撰撰様  
名物

新撰撰様

同

新撰撰様

新撰撰様  
下

菅荒野

伝濃

又撰撰様

更々様

後撰撰様

同恋二

同恋三

同

同返

同恋五

同恋六

後撰撰様

同恋二

同恋四

金葉質

同賀

名所ありて... 下畧

井基法師

後成

藤原盛方

中務親王

法下清誉

三条院權

大納言典侍

三条大皇孫

俊成

後成

新部尚長

右東隆祐

伊勢

平平の...  
土左

藤原守文

相摸

右系能通

清原元捕

匡房

永盛法師

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...



千載夏

松山を流るる水もあはれなるなりと云ふは末の松山 友原親盛

新古今春上

霞立の松の山ありと波小の松ありと云ふは末の松山 家隆

同冬

むのあはれなるなりと云ふは末の松山 家隆

同春

松山を流るる水もあはれなるなりと云ふは末の松山 家隆

同恋高

白波のあはれなるなりと云ふは末の松山 定家

同雜上

位のあはれなるなりと云ふは末の松山 加賀元盛

新勅撰恋三

松山を流るる水もあはれなるなりと云ふは末の松山 源家長

同雜四

うのあはれなるなりと云ふは末の松山 清捕

同返一

松山を流るる水もあはれなるなりと云ふは末の松山 源信明

同

波のあはれなるなりと云ふは末の松山 中務

同

松山を流るる水もあはれなるなりと云ふは末の松山 俊成

同雜中

松山を流るる水もあはれなるなりと云ふは末の松山 家紀伊

同返二

松山を流るる水もあはれなるなりと云ふは末の松山 按察使朝

後拾遺章

松山を流るる水もあはれなるなりと云ふは末の松山 左近大将府

同

松山を流るる水もあはれなるなりと云ふは末の松山 慈鎮

同

松山を流るる水もあはれなるなりと云ふは末の松山 太上天皇

同

松山を流るる水もあはれなるなりと云ふは末の松山 九条右大臣

同雜上

松山を流るる水もあはれなるなりと云ふは末の松山 後醍醐院

新撰撰恋三

松山を流るる水もあはれなるなりと云ふは末の松山 大納言曲

同雜中

松山を流るる水もあはれなるなりと云ふは末の松山 右衛門督

同

松山を流るる水もあはれなるなりと云ふは末の松山 基

同

松山を流るる水もあはれなるなりと云ふは末の松山 氏部 賢

同

松山を流るる水もあはれなるなりと云ふは末の松山 信実

同

松山を流るる水もあはれなるなりと云ふは末の松山 兵部 元良

同

松山を流るる水もあはれなるなりと云ふは末の松山 為氏

同

松山を流るる水もあはれなるなりと云ふは末の松山 相模

同

松山を流るる水もあはれなるなりと云ふは末の松山 鎌倉右大臣

同

松山を流るる水もあはれなるなりと云ふは末の松山 法中延全

同

松山を流るる水もあはれなるなりと云ふは末の松山 俊頼

同

松山を流るる水もあはれなるなりと云ふは末の松山 大江行元

同

松山を流るる水もあはれなるなりと云ふは末の松山 大納言朝光

同

松山を流るる水もあはれなるなりと云ふは末の松山

同

松山を流るる水もあはれなるなりと云ふは末の松山



新後拾遺下 春 志の松の波の山は又やよみの松も言ふは從一位官子  
 同秋下 志の松の波の山は又やよみの松も言ふは從一位官子  
 同冬 長之末の山は又やよみの松も言ふは從一位官子  
 同別 今より志の松の波の山は又やよみの松も言ふは從一位官子  
 同齊 新の山は又やよみの松も言ふは從一位官子  
 新後拾遺上 春 志の松の波の山は又やよみの松も言ふは從一位官子  
 同春下 志の松の波の山は又やよみの松も言ふは從一位官子  
 同冬 志の松の波の山は又やよみの松も言ふは從一位官子  
 同旅 志の松の波の山は又やよみの松も言ふは從一位官子  
 同恋三 志の松の波の山は又やよみの松も言ふは從一位官子

類字名取和歌集第七

此書布流千世寒暑者已久  
 而文字間漂没故今加授

訂令新刊之者也

養應式 己 臘月吉日







面父... 同... 始... 今... 味... 黏  
 故... 書... 亦... 流... 于... 世... 寒... 風... 日... 久...

五... 年... 十... 月... 廿... 一... 日...

五... 年... 十... 月... 廿... 一... 日...



